

フィールドウォッチング「秋の弥陀ヶ原とカルデラ展望」

2016年10月1日（日）

26人の参加者と「路線バスでは通過しがちな名所」を巡りました。

日本一の「称名滝」は贅沢に二カ所から眺望。最初は昭和天皇も訪れた「大観(だいかん)台(だい) (標高 1466m)」、二カ所目は滝までの距離が 500m と非常に近い「伏(ふ)し拝(おが)み (標高 1520m)」。修験者たちが神聖な瀑布へ立入る事を避けていた時代、高いこの地より、低頭に伏して滝を拝んだと伝わっています。

弥陀ヶ原に到着後は石畳の道を約 20 分登り「立山カルデラ展望台 (標高 2010m)」へ。眼下に巨大な窪地を一望するはずでしたが、残念ながらの濃霧。それでも足元の崖から漂う迫力は、ここが今なお崩壊を続ける立山カルデラの縁(ふち)である事を印象づけていました。昼食の後は、弥陀ヶ原ホテル最上階から火山と浸食が造りだした壮大なパノラマを堪能し、池塘(ちとう)めぐりへと出発。草木が枯れ静けさをまとった湿原は、すでに初冬の装いでした。最後は「追分の観音石仏」にご挨拶し一同バスへ。

走り抜ける秋と地球の生い立ちを、肌で感じる高原散策になりました。

